
第 122 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXXII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2018 年 11 月 3 日（土） 10:30 - 13:00

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1003 教室

担当者：村上陽子

『教授法(おしえかた)～新しい挑戦～』

文法教科書調理法 ～「教科書を教える」から「教科書で教える」へ～

* Fecha y hora: sábado, 3 de noviembre de 2018, de 10:30 a 13:00

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1003

* Encargado por Yoko Murakami

* [Metodología: nuevos desafíos] ¿Cómo enseñar la gramática CON el libro de texto?

本ワークショップは、構造シラバスになっていたり、文法教授に主眼が置かれていたりする教科書をうまく「調理」し、学生が文法を「わかる」ためにだけでなく、学習言語を用いて何かを伝えることが「できる」ことを目標として授業を組み立てる際に、採用すると役立つと考えられる方法を提案し、体験することを目的として実施された。

授業を担当している教育機関などから指定された、あるいは教員自身が選んだ教科書を授業で使用する時、教科書にそって書かれている内容に忠実に授業を展開する方法の是非については、昔からあらゆる学校教育科目において議論がされてきており、日本で初めてこのテーマが扱われたのは、木田宏著『新教育と教科書制度』（1949 年）であろうと思われる。文部事務次官だった木田は、そのなかで、「教師中心から児童生徒中心へと切りかえられた新教育にあつては、教育は、教科書を教えるのではなく、教科書で教えるのであるから、教科書は学習を行うための一つの手段である。教科書は決して、学習の目的ではない。」(p.100) と述べている。

外国語教育に関して、教科書を教えるのではなく、教科書で教えることを考えるとき、スペイン語教師が参考にしやすいものとしては、教授言語は異なるが、2012 年に開催された公開ワークショップ「中国語教科書調理法」がある。そこで提案された様々な方法はインターネット上で公開されており、教授言語の違いをこえて参考になる内容になっている。この公開ワークショップで紹介されている「調理法」のいくつかは「外国語学習のめやす(以下「めやす」)」の考え方や手法に基づいて提案されているため、「めやす」の目指す外国語教育についても簡単に紹介した。

「めやす」の提案する授業づくりの「ツール」のうち、今回のワークショップでは、「目標分解」の手法に基づいて、構造シラバス／文法教科書のアダプテーションを提案した。目

標分解とは、年間あるいは学期の学習目標（大目標）を設定し、その目標を達成するためにはどういった学習内容・活動が達成されることが必要か（中目標）を決め、さらに、より具体的で細分化された小さな目標（小目標）が日々の授業内活動を決定づけるという、方針と具体的な学習活動をつなぐ考え方である。

今回のワークショップでは、年間(学期)目標を「留学生に大学のおすすめを紹介するビデオを作る」ということにし、以下の手順で活動をペアで行った。

1. 単元目標（中目標）を設定し、テキストを中目標の数のユニットに編成しなおす。
2. 具体的な目標（小目標）を設定する。
3. 評価方法（形成的評価（小テストなど）総括的評価（ループリックなど））を設定する

残念ながら、時間切れのため各ペアが設定した中目標や小目標を参加者全員で共有することはできなかったが、短い時間ではあるものの質疑応答や意見交換をすることができた。